



2017年の元日は、晴天で穏やかな日曜日でした。元旦礼拝と新年礼拝も重なり、すっきりとした新年の幕開けとなりました。礼拝後に、家族、友人と一緒に伝統のお節料理を食べて、にぎやかにお祝いしました。

3年前に買ったクリスマス・ホリーが今年は沢山実をつけましたので、アドベントに、室内に取り込み、黄色い折り紙のバラを、星にして、クリスマス・ツリーに見立てて楽しんでいましたが、とうとう、小鳥へのプレゼントにする時がきました。ベランダに出しました。小鳥は用心深く、少しでも人の気配を感じると飛び立ちます。カメラに捕らえるのは難しかったです。やってきたのはヒヨドリでした。

今年は干支では「酉年」ということですので、新年の幕開けに、セサミ・ストリートの音楽担当のロバート・ランフォンドによる、懐かしい「モンリオール・鳥類オーケストラ」のCDを聞きました。このCDはツグミ カナリア カージナル からす カッコウ アオカワヒラ ひばり アビ せきれい うぐいす こまどり ツバメ シジュウカラ キジバト キツツキなどの小鳥の声を加えて、クリスマスの歌からバッハ、シューベルトのお馴染みの曲まで演奏しています。「この鳴き声は誰？」と聞きながら、気軽に楽しめる音楽です。可愛らしいさえずりや、暢気な鳴き声を笑って聞けます。



お正月気分を楽しむために、三溪園へ散歩に出かけました。静かな園内には家族連れや、海外の観光客が訪れていました。室町から江戸時代に建てられた、重要文化財となった古い建築物を見学しながら、ちらほら咲き初めている白梅の中を散策しました。大池には鯉が泳ぎ、カモが群れ遊び、アオサギもいました。羽の白い鳥が一羽いて、白鷺の幼鳥？それともカモメ？など見知らぬ人と会話を楽しみながら、しばし眺めました。池では鳥の鳴き声は聞こえませんでした。艶々と光る黒い羽の綺麗なカラスが木陰を歩き回っていたり、やたらに太った猫たちがあちこちで寝そべっていて、生き物の気配が穏やかで、お正月らしさを満喫できました。

神は言われた。「生き物が水の中に群がれ、鳥は地の上、天の大空の面を飛べ。」(創 1:20)

空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。(マタ 6:26)

鳥を守られる神様は、鳥以上に私たちを愛し、大切に見守っておられることを覚えて、日々の生活を神様に委ねていきたいと願っています。三溪園は横浜市内の老人であることを証明できれば、入場料500円が無料と知り、老人になった喜びも味わいました。これからは、時々行ってみたいと思っています。帰宅するとクリスマス・ホリーの実はあらかた無くなっていました。

